県　外　派　遣　報　告　書

一社）栃木県バスケットボール協会　審判委員会

大 会 名	令和7年度 関東高等学校男子バスケットボール大会	開催地	東京都 府中市　京王アリーナ
報告者名	松本　祐大　・　藤木　千仁　・　横山　良	派遣期間	２０２５年５月３１日（土）～６月１日（日）

５月２７（火）審判会議

講師	平出剛氏（TLG担当のため不在）　・　加納康平氏　・　菊地瑞昭氏
会場	ZOOM ミーティングルーム

開会の挨拶
〇東京都バスケットボール協会専務理事 針生 淳男 氏
〇関東バスケットボール協会審判委員長 平原 勇次 氏

指名審員レクチャー
〇茨城県 菊池 瑞昭氏
・レフリーとして大切にしている3つのキーワード
－覚悟：年齢を考慮した責任感、ライセンス返上の覚悟も持ちながら活動
－準備：覚悟を支える準備の重要性
－変化：短期間での変化は難しいが、積み重ねが大きな成長につながる
・ レフリー活動と仕事・家庭の両立の難しさについての考え
－審判活動を続けるためには、仕事や家族との時間（家事・育児）も大切に、活動ができる環境を整える必要がある
・「考える習慣」の重要性：
－ 選手の反応や感情、ゲームフローなどを深く考察
－ 判定やメカニクスだけでなく、多角的な視点を持つ
→これらの継続により新たな気づきがあり、準備（覚悟）に繋がり、できなかったことができるようになっていく。
・ レフリーが警戒すべき心：慢心、過信、安心はせず常に謙虚にいること→周りの方に感謝の気持ちを忘れず。
・ 学生選手へのリスペクトの重要性：限られた競技期間の中で悔いなく活動できるよう支援
〇神奈川県 加納 康平 氏
・「良い審判とは何か」についての考察
－ 自分が目指す審判像を明確に持つことの重要性
－ 加納氏は「困ったらあの人に聞こうと思ってもらえる審判」を目指している
・2日間で劇的な変化は難しいが、理想に近づける努力が大切
・コミュニケーションの重要性
－ 会話を一往復で終わらせず、コミュニケーションを継続することでベンチや選手の感情や考えなどの情報を得る
－ 傾聴の姿勢から始め、信頼関係を構築することが重要
・ハンドホイッスル技術
－ コミュニケーションの際、相手に笛を見せながら会話することで吹かない意思表示をする場合もある。
・今大会に臨むにあたって
－ 高校生を一選手としてリスペクトし、コミュニケーションから得た情報を判定に活かす
（吹いたら素直に手を上げてくれる）高校生を1人の選手としてリスペクトし高校生扱いをしない。
　→まず自分の判定を疑うことから検証する。手を上げてくれたからといってその素直さに甘えない。自分を守ろうとしない。

,

県　外　派　遣　報　告　書

一社）栃木県バスケットボール協会　審判委員会

大 会 名	令和7年度 関東高等学校男子バスケットボール大会	開催地	東京都 府中市　京王アリーナ
報告者名	松本　祐大　・　藤木　千仁　・　横山　良	派遣期間	２０２５年５月３１日（土）～６月１日（日）

５月３１日（土）

審判員	CC:平原勇次 氏（東京都）　U1:阿久沢尚夫 氏（群馬県）　U2:松本祐大（栃木県）		
カード	桐光学園高等学校　vs　つくば秀英高等学校		
コート	Bコート	主任	山口 尭彰 氏

PGCでは各チームのキーとなるプレーヤーやマッチアップ、メカニクスの確認を行いゲームに入りました。担当するにあたり、１つ１つのプレーをよく確認し、RSBQまで見てから精度の高い判定をすること、試合の流れを感じながら必要な笛を入れていくこと、事前のレクチャーでお話しいただいたコミュニケーションにチャレンジすることを目標に臨みました。
試合は序盤より互いにハードなデフェンスで激しい攻防が続き、終盤まで拮抗したゲームとなりました。 １試合通して取り組もうとした部分はチャレンジをして自分の持っている力は出し切ったと考えますが、その中でゲームの出だしに自身のプライマリでのコンタクトを長く見すぎてしまい、判定を下す前に先に吹いてもらったケースがありました。試合後のフィードバックでは、テンポセットの部分で自身でコールを入れていく必要があった部分とセンターとしてもっと強くなる必要があることや、シリンダーファウルなどコンタクトについてはよく見極めて吹けていたので良かったとのお話しをいただきました。ハイレベルなゲームを担当させていただき、試合中も平原先生よりお声掛けいただけて大変良い経験となりました。

審判員	CC:松本祐大（栃木県）　U1:佐藤賢 氏（茨城県）　U2:崔修一氏（東京都）		
カード	自然学園高等学校　vs　埼玉栄高等学校		
コート	Cコート	主任	川越 理 氏

PGCでは、メカニクスの確認と各チームの初戦を参考にチームの様子などの共有を行いました。また互いの留学生への対応（留学生同士のマッチアップおよびミスマッチ）とシューターに対する守り方（FUL）を中心に話し合いました。
自身としては、１試合目の反省を活かしより強く決断をしていくことを意識して臨み、やり切ることができたと考えております。またCCとしてクルー、TOと協力をしてより良いゲームにできるようコミュニケーションを良く取りながら試合を進めました。試合は、序盤は留学生を中心とした攻めで自然学園がリードし、中盤より埼玉栄のアウトサイドシュートが決まりだし追いつき、終盤まで拮抗した展開となりました。PGCでの打ち合わせ通りに留学生に対するコールを積み上げていくことでフラストレーションなくゲームに集中してくれていたと感じました。
試合後のフィードバックでは、１試合を通してコールし続けることができていてとても良かったとのお話しをいただきました。自身がUFをコールした際に、結果UFの判定で合っていたと思うが、ダイレクトで判定せずに、一旦パーソナルファウルでコールを行った後に集まってアップグレードをしても良かったとアドバイスをいただきました。
最後に、今大会の派遣に際しまして、ご尽力いただいた梶審判委員長をはじめとする県内審判員の皆様、大会運営等でお世話になりました東京都バスケットボール協会の皆様に御礼を申し上げ、派遣報告とさせていただきます。

県　外　派　遣　報　告　書

一社）栃木県バスケットボール協会　審判委員会

大 会 名	令和7年度 関東高等学校男子バスケットボール大会	開催地	東京都 府中市　京王アリーナ
報告者名	松本　祐大　・　藤木　千仁　・　横山　良	派遣期間	２０２５年５月３１日（土）～６月１日（日）

５月３１日（土）

審判員	CC:三浦弘義 氏（神奈川県）　U1:齊藤大地 氏（埼玉県）　U2:藤木千仁（栃木県）		
カード	専修大学附属高等学校　vs　山梨学院高等学校		
コート	Cコート	主任	中嶽 希美子氏

PGCでは、ゲームをスムーズに進めること、良いクルーワークを発揮することを申し合わせました。
実際のゲームでは、特に留学生周りでミスマッチが起こることによるコンタクト、そのストレスによるインテンシティからのイレギュラーなアクションをレフリーが管理する場面が多々あったように感じます。
自己フィードバックとして、その現象の過程をクルーで、「いつから」、「どこで」、「どこを」観察するかが大切であったのではないかと感じます。また、目を離せないマッチアップがプライマリーエリアから外れている間、各個人がどのようにその後のマッチアップ情報を得て、自分のエリアに再度戻ってきた際、どう判定するのか、その点非常に難しく、これも一つの情報共有手段としてのクルーワークであったのではないかと考えます。
担当主任の講評では、ゲームを通して足元の整理をすることで、バスケットとしてより締まりのあるゲームになったのではないか、また、各個人で判定したもの（コール・ノーコール）の中で、レフリーだけが良かった判定だと感じるのではなく、ベンチや選手の反応から得られる情報をゲットし、より納得してもらえる判定をできるとより良かったのではないかと、今回のクルー全体において今後の課題となるポイントをピックアップしていただきました。
最後に、今大会の派遣に際しまして、ご尽力いただいた梶審判委員長をはじめとする県内審判員の皆様、大会運営等でお世話になりました東京都バスケットボール協会の皆様に御礼を申し上げ、派遣報告とさせていただきます。

５月３１日（土）

審判員	CC:横山良（栃木県）　U1:小林大輝 氏（茨城県）　U2:設樂大成 氏（群馬県）		
カード	埼玉平成高等学校　vs　立花学園高等学校		
コート	Aコート	主任	眞榮喜 工 氏、佐田 幸一 氏

担当ゲームの映像を事前にクルーに共有し、ゲームを進めていく上での注意点や約束事、共通認識（メカニクス、プレーコーリング）を確認。その上で当日のPGCを行ったことでクルー全員が同じ考え方で進行でき、結果的に1試合通して良いクルーワークを継続できたと考えています。
プレーコーリングの面では、関東大会というレベルを踏まえつつ、プレーの始まりからフィニッシュまで長く見て吹き急がないことを心がけた結果、ビッグインパクトなど必ず笛が必要なケースで鳴らないケースが無かったことはポジティブに捉えています。その一方で、笛が鳴っていない場面で手や体の使い方など、笛を入れるべき場面もあったように思え、気づきの少なさや笛の一貫性では課題も残ったと感じています。
試合後の講評では、クルーワークよくゲームを進行した点は評価いただけた一方で、手や体の使い方に関する判定力は課題ありとの指摘がありました。また、テクニカルファウルの際のボールのステータスの確認についても課題が残りました。
ゲーム全体通じて、良い点や改善点がそれぞれあり、さらなるステップアップに繋がるゲームだったと考えます。最後に、今大会の派遣に際しまして、ご尽力いただいた梶審判委員長をはじめとする県内審判員の皆様、大会運営等でお世話になりました東京都バスケットボール協会の皆様に御礼を申し上げ、派遣報告とさせていただきます。